

例解日语语法

刘和民 主编 战庆胜 副主编 陈岩 主审



大连理工大学出版社



例解日语语法

主 编 刘和民
副主编 战庆胜
主 审 陈 岩

大连理工大学出版社

图书在版编目(CIP)数据

例解日语语法/刘和民主编,战庆胜副主编,陈岩主审.
—大连:大连理工大学出版社,1997.8
ISBN 7-5611-1241-6

I. 例… I. ①刘… ②战… ③陈 III. 日语-语法-
例解-学习参考资料 N. H364

中国版本图书馆 CIP 数据核字(97)第 01472 号

大连理工大学出版社出版发行
(大连市凌水河 邮政编码 116024)
大连理工大学印刷厂印刷

开本:850×1168 毫米 1/32 印张:12.75 字数:336 千字
1997 年 8 月第 1 版 1997 年 8 月第 1 次印刷
印数:1—4000 册

责任编辑:王佳玉

责任校对:石广和

封面设计:孙宝福

ISBN 7-5611-1241-6
H·164

定价:18.00 元

《例解日语语法》执笔者名单

柳纳新(名词;句子的基本成分和附加成分)

贺静彬(形式名词)

姜春枝(动词)

刘 莉(复合动词)

肖 爽(形容词)

李淑云(形容动词)

罗丽杰(助动词)

刘晓丹(副词)

卢凤俊(拟声词、拟态词)

肖婷婷(格助词)

姚艳玲(副助词)

柴红梅(接续助词)

黎晓妮(并列助词)

刘 山(语气助词)

邴 胜(词缀)

刘和民(语态)

连淑珍(时和体)

苏君业(口语体和文章体)

盛 凯(敬语)

前 言

一、本书取名《例解日语语法》，意在用比较丰富、多量的例证解释日语语法。

词语的意思、用法以及语法规律，只有在特定语境下的丰富多彩句子乃至篇章中才能具体地、全面地展现出来。我们学习日语，听到的读到的都是个别的话；用日语表达思想感情，传达信息，说的写的也是个别的话。但是这“个别”之后有“一般”。语法即是寓于个别之中的一般的东西之一种。一般的规律从无数个个别中归纳、抽象出来，又支配着个别。有句名言说：“生活之树常青，理论总是灰色的”。仿照这个意思，也不妨说，现实的、自然的语言是无限丰富、生动的有生命的东西，语法则是“灰色”的。但是这并不是说理论无用，语法无用。现实中有时会遇到这样的情形：有时有些语言现象用我们了解的语法知识解释不清楚；我们掌握的语法知识也不能保证说出、写出正常的、自然的日语。其原因有三：一是我们的知识有限；二是语言不仅受语法制约，还受语义、语用的制约；三是我们学语法往往脱离实际，就语法学语法，相对忽视了语法的由来的实际语言。我们希望用“例解”的方式改进学习方法上的偏颇，使语法学习更贴近实际，更有助于实际语言的理解和表达。

二、日语语法只有一个。但是对于语法的解说则是众说纷纭。解说是某种“语法论”，并不等于语法本身。我们习惯上用“山田语法”、“桥本语法”、“时枝语法”等称谓某个语法学说，但并非日本人有人说“山田语法”，有人说“桥本语法”；他们用的都是约定俗成的统一的日语语法。

本书不是遵循某一学派的语法体系，但基本上是沿用了所

谓“学校语法”(即日本“中学语法”)。这样做主要是考虑这种语法在中国已使用多年,此外也还没有别的可供外国人学习的规范语法。但是本书在有些问题上与“学校语法”不全一致。例如关于活用词的活用,关于句子成分的划定,都与学校语法不同。另如关于语态、时和体、形式名词、词缀、口语体和文章体等都专门设一章。这是一种新的尝试,效果如何还有待教学实践的检验,希望读者和专家提出意见。

三、全书基本上包括了日语语法的主要内容。但在使用时可以根据具体条件有重点地选择取舍,前后次序也可以灵活掌握。

本书由大连外国语学院日本语学院中日比较语言研究所编写。编写过程中主要参考了以下书籍:

名柄迪监修《日本語例文問題シリーズ》(荒竹出版)

铃木重幸《日本語文法・形態論》(むぎ書房)

寺村秀夫《日本語のシンタクスと意味》(くろしお出版)

三尾砂《話しことばの文法》(法政大学出版局)

益岡隆志・田窪行則《基礎日本語文法》(くろしお出版)

刘和民 战庆胜

于香港回归祖国之日

目 录

前言

第一章	名词	1
第二章	形式名词	24
第三章	动词	42
第四章	复合动词	62
第五章	形容词	83
第六章	形容动词	99
第七章	助动词	111
第八章	副词	138
第九章	拟声词、拟态词	154
第十章	格助词	177
第十一章	副助词	191
第十二章	接续助词	203
第十三章	并列助词	216
第十四章	语气助词	230
第十五章	词缀	245
第十六章	语态	270
第十七章	时和体	288
第十八章	句子的基本成分和附加成分	318
第十九章	口语体和文章体	355
第二十章	敬语	369

第一章 名 词

めいし
(名詞)

本章要点

“名詞”包括名词、代词和数词，大致相当于通常所说的“体词”（体言^{たいげん}）。这类词有共同的语法特征：是自立词（自立^{じりつ}語）（有别于助词、助动词等附属词）；没有活用（有别于动词、形容词、形容词动词）；充当句子各种成分时，一般要后接某些附属词（如助词）。在词义方面，它具体或抽象地指称人、物、事及数字的概念。

语法例解

一、名词（名詞^{めいし}）

（一）名词的分类

1. 从表达词义的角度分。

（1）实质名词（実質^{じっしつ}名詞^{めいし}）。

具有词汇意义，能够充当句子成分的名词叫实质名词，如“太陽，机，学校，教師，万年筆，日本人，駅，雪，最近，計画，東”等。

（2）形式名词（形式^{けいし}名詞^{めいし}）。

不具有词汇意义,没有修饰成分就不能单独使用的名词叫形式名词。形式名词主要有“の,こと,ところ”等。

△ 田中は美智子が結婚した^{こと}を知らなかった。

△ 君は彼が勉強している^のを見た^{こと}があるか。

△ その泥棒は窓から逃げようとしている^{ところ}を捕まった。

(关于形式名词,有专章说明)

(3) 实质名词还可以分为专有名词和普通名词。

① 专有名词(固有^{こゆうめいし}名詞)。

专有名词指示人名、地名、商号名、团体名、作品名、药品名等特定的名称,是在比较小的范围内为区别同类事物而对某些事物专指的名词。

△ 富士^{ふじ}山は3776メートルです。

△ 京^{きょう}都は古い町です。

△ 「源^{げん}氏^し物語^{ものがたり}」は世界最古のすばらしい文学作品の一つである。

△ 「万^{まん}葉^{えふ}集^{しふ}」は八世紀の中ごろできました。

△ ——死因は何ですか。

——睡眠薬です。プロバリン^{プロバリン}を大量にのんでいます。

△ ぼくはU F Oをみたという話をしたら、みんなわらいました。

△ 太郎^{たろう}はその犬をポ^ポンと名付けた。

△ 叛逆者・裏切り者・売国者をクイーズリング^{クイーズリング}という。

△ 先生のクラスに、たしか山田^{やまだ}美智子^{みちこ}という子、いましたよね。

△ ヘー^{ヘー}ド^ドー^ーヘ^ヘンの「運命^{運命}交響^{交響}曲^曲」、「田園^{田園}交響^{交響}曲^曲」は不朽作だ。

△ 東映映画^{東映映画}会社は1951年三つの映画会社が合併してできた会社である。

△ オリンピックは4年に1度開かれる。

② 普通名词(普通名詞)。

可用来广泛地表示同类事物的名词叫普通名词,绝大部分名词是普通名词。

△ 花子は数字に強い。

△ 歩道を歩くようにして下さい。

△ そろそろ会議を始めます。

△ 太郎は花子と同じくらい歌が上手だ。

△ 花子は歯が痛かった。

△ 明らかに、太郎は嘘をついている。

△ 珍しく、大雪が降った。

△ ちりも積もれば、山となる。

△ 明日、雨降ったらどうする。

△ 鯨は魚ではない。ほ乳類だ。

△ ボタンがとれそうだった。

△ タクシーお呼びしましょうか。

△ 一緒に病院に行っていたいただけると助かるんだ。

(4) 实质名词按其语义性质及与之相关联的语法特点,可以分为以下几种。

① 指人名词(人名詞)。

△ 先生、うちの息子はK大通るでしょう。

△ 僕は妻にいつまでもきれいでいてほしい。

△ 私は将来宇宙飛行士になりたい。

△ 文法の専門家も、ハとカの使い分けの説明には苦勞している。

△ 刑事は私にその日何をしていたか尋ねた。

△ 競技会場に選手が次々に到着している。

△ 鈴木さんは部長から出張を命じられた。

△ 太郎は朝早く、友人に電話で起こされた。

△ 鈴木さんはこの小説を書いた作家です。

△ 父は医者をしています。

△ 入学申し込みは保証人が必要です。

② 指物名词(物名詞)。

△ あんなところに蠅がいる。

△ 花子はきれいな目をしている。

△ 花子は太郎からお金を借りた。

△ 店の主人は、サンドイッチを少し小さくした。

△ 花子は布をポロポロに破った。

△ 太郎は朝早く、友人に電話で起こされた。

△ 鈴木さんは部長に山のような書類を渡された。

△ 太郎は思いがけず、花子から詩集を贈られた。

△ おや、新しい機械を入れたんですね。

△ あそこに財布がある。

△ 鈴木さんは針金を使って、鍵をこじ開けた。

③ 指事名词(事態名詞)。

△ これこそが私の長年の夢だ。

△ 今の調子では、予選にさえ出られない。

△ 私へのご遠慮は無用に願います。

△ 結婚してからの生活は味気ないものでした。

△ 英語、あるいは、仏語の会話能力が要求される。

△ この車は性能がいいです。

△ この辞典の特徴は用例をたくさん載せていることです。

△ 都会と農村では、生活習慣が異なります。

△ 彼女は独身ですか。

△ 太郎は、人間関係で苦勞している花子に同情した。

△ この現象を最初に発見したのは田中ですか。

△ 日本は米の自由化をすべきか。

△ 次郎は三郎と優勝を争った。

④ 处所名词(場所名詞)。

△ 現場を見た人は1人もない。

△ 10分も歩けば、目的地に着きます。

△ お手洗いはどこにありますか。

△ 夏休みの宿題の工作が教室に展示してありました。

△ 警察は犯人が銀行から出てくるところを捕まった。

△ あの人はどうも結婚しているらしい。田中君が子供と遊園地で遊んでいるのを見たと言っている。

△ パパ、庭に水撒いてちょうだい。

△ 砂場に子供がいる。

⑤ 时间名词(時間名詞)。

时间名词常做状语,表示动作或状态的时间。

△ 太郎は昨夜、11時頃家に帰った。

△ ゆうべ、この辺に幽霊が出たんですって。

△ 来年はきっと不景気になるだろう。

△ 明日、会議にでますか。

△ 午後出発しようと思います。

△ その問題は、現在、検討しているところだ。

△ 花子は最近、コンピューター・ゲームに凝っている。

△ 私は翌朝 5時に家をでました。

△ 吉田さんから来月転勤するという知らせをうけました。

⑥ 方位名词(方向名詞)。

表示方位的名词,有单纯的,如“上,下,前,後,東,西,南,北,左,右,外,奥,中,隣”等,也有合成的,如“左側,右側,東側,西側,南側,北側,真中,左右,南北,南西,北東,南東,北西,左上,右上,左下,右下”等。

△ 小野さんは家の前においておいた自転車を盗まれたそうです。

△ この車はハンドルが左側に付いている。

△ むこうから誰かがやってきた。

△ 川のむこうは田んぼです。

△ 紙の右上に星を三つ書いて下さい。そして、紙の左下に家を三つ書いて下さい。

△ 父のとなりにいるのが母です。

△ 花子、右側から出て来て、舞台中央で止まる。

△ 西の空が赤く染まった。

以上各类名词,在表示疑问时,根据其所指对象的意思范畴的不同,分别采用不同的疑问词。指人名词的疑问词用“だれ/どなた”,指物名词和指事名词用“どれ/何”,处所名词用“どこ”,时间名词用“いつ”,方位名词用“どちら”。

△ 誰がこの手紙を書いたかは明らかだ。

△ — 何がある。

— りんご。

△ 花はどこに飾ってありますか。

△ 今週の月曜日、火曜日、水曜日の中では、いつが一番都合がよいですか。

△ どちらに向いていますか。

△ 果物の中では、何が一番好きですか。

△ 牛肉と豚肉と鶏肉では、どれが一番好きですか。

原则上,指物名词和指事名词的疑问句,在有明确的选择对象存在的情况下,用“どれ”,否则用“何”。但当选择对象是较抽象的概念时,用“何”。

△ 真善美の中で、あなたにとって何が最も大切ですか。

实质名词与其他词的搭配关系(语法结构)也不尽相同。

例如,可以说“山田さんの家に行きます”,不能说“山田さんに

行きます”。因为“家”有处所性，可以同移动动词搭配，而“山田さん”没有处所性。可以说“井戸を掘った人のことを忘れません”，不能说“井戸を掘った人を忘れません”，必须在“井戸を掘った人”之后加上有指事意义的形式名词“こと”。

2. 从语法功能的角度分。

(1) 相对名词。

多指表示时间或空间相对位置的名词。典型的是“前、後、中、左、右、上、下、以前、以上、手前、奥、背後、背景”等。这种词需要有定语修饰，才能明确它的所指。

△ 私が日本に来る前。

△ 彼が行ってしまった後。

△ 佐世保でこのような事態が生じた背景。

△ 私が坐っている右。

△ 今度彼に会った時。

△ 会議が終わった翌日。

(2) 含意名词。

这类名词所指的具体内容，也需由特定的定语指明。

△ わいろを受けとった(という)疑い。

△ お茶を煎っている匂い。

△ 彼女が洗濯をしている姿。

△ 明子が弁論大会で優勝した(という)話。

△ 階段を下りて来る足音。

△ 皆に悪いことをした(という)気分。

△ 太郎が花子と結婚したといううわさ。

△ 農林省で試作した結果。

△ 遭難者が全員救助されたニュース。

△ 授業がむずかしすぎるという文句。

这类名词在语法结构上的特点是，它们在修饰它的定语从句中不占有位置，不是修饰它的定语从句中的某个成分。例如，“洗濯をし

ている彼女”的“彼女”是“彼女が洗濯している”中的主语。“彼が書いた論文”的“論文”是“彼が論文を書いた”中的ヲ格补充语。但是“彼女が洗濯している姿”，“彼が論文を書いた話”中的“姿”，“話”，在修饰它的定语从句中并没有位置。

(二) 名词的语法功能

1. 名词可以充当各种句子成分。

(1) 充当主题。

△ この魚は刺身では食べられない。

△ 太郎は100メートル泳げない。

△ 日本は、車も多いし、道路も狭い。

△ この政策は必ずしも市民に支持されていない。

△ この辺りの景色はずいぶんかわった。

△ 今日はいいい天気ですね。

(2) 充当主语。

△ A社から新製品が出たそうだ。

△ 山の緑が美しく見える。

△ 弟が昨日帰ってまいりました。

△ 布がポロポロ破れた。

△ 夕日が西の空を赤く染めた。

△ 野次馬が大勢集まってきた。

(3) 充当补充语。

名词通常后接格助词，复合格助词，引用助词“と”构成补充语。

△ 昨日、神戸に到着いたしました。

△ 先週、東京から帰ってまいりました。

△ 鈴木と申します。

△ 「箸」は中国語で何といいますか。

△ 鈴木先生は本をお書きになった。

△ 太郎は花子と再会を約束した。

△ 鈴木さん達は太郎を客としてもてなした。

△ 3時まで待ちましょう。

△ この車は広島へむかっています。

△ 自動車の運転はオートバイの運転より難しい。

△ 太郎のことは私にとって大きな励みになった。

△ 花子は繁華街でハンドバッグを奪われた。

(4) 充当定语。

名词可以做定语修饰、限定别的名词，又可承受定语的修饰、限定，这是名词的特点。名词做定语有以下几种形式：

① “名詞₁の名詞₂”。

这是名词做定语中最常见的一种形式。

△ 病気の子供のために、百万円かった。

△ これは当然の結果です。

△ いつほんとうのことを話すが重要だ。

△ 春の雨はひと雨ふるごとに暖くなる。

△ 彼のへやはかべ一面に写真がはってありました。

△ 辞書は机の上においてあります。

② “名詞₁である 名詞₂”。

△ 物理先生である大田さんは先週、病気で入院しました。

△ 本来なら、長男である私が母の世話をすべきなのですが。

△ 敬語表現は膠着語である日本語の特徴の一つである。

③ “名詞₁という名詞₂”。

△ これは鯛という魚です。

△ 先生のクラスには、たしか、山田美智子という子、いましたよね。

△ 教師というものは、常に愛を持って生徒を導かなければならない。

△ とかく、学校というところは、生徒の管理をする場所になりやすい。

④ “名詞₁な名詞₂”。

名詞₂ 通常是形式名詞或接續助詞“のに”。

△ 太郎はまだ学生なのだ。

△ まだ子供なものだから、ふざける。

△ 日本人なのに、英語がとても上手だ。

△ 君は私の親友なのに、助けてくれない。

⑤ “名詞₁ 格助詞(或复合格助詞)の名詞₂”。

△ 私へのご遠慮は無用に願います。

△ あしたの校外学習についての説明をしますから、ちょっと聞いて下さい。

△ 東京までの切符はもう買いました。

△ 面接官: この学校を選んだ理由は。

学 生: 先輩からの紹介と、学校の感じが自分に合っている
と思い、志望させていただきました。

(5) 充当状語。

名詞做状語的情况较少, 主要是時間名詞。

△ 最近、田中さんは来るかい。

△ 北海道は今頃さぞ寒いでしょう。

△ 明後日帰って来るつもりです。

此外, 像“船が左右にゆれる”, “日本は南北に長い国である”,
有的方位名詞也能做狀語。

(6) 充当謂語。

△ 今年度の決算は赤字だった。

△ この事実を指摘したのは田中ではない。

△ 驚いたことに、会場は超満員だった。

△ このペン立ては陶製である。

△ 主人は会社です。

△ 戦争は戦争だ。

△ ぼくはうなぎだ。